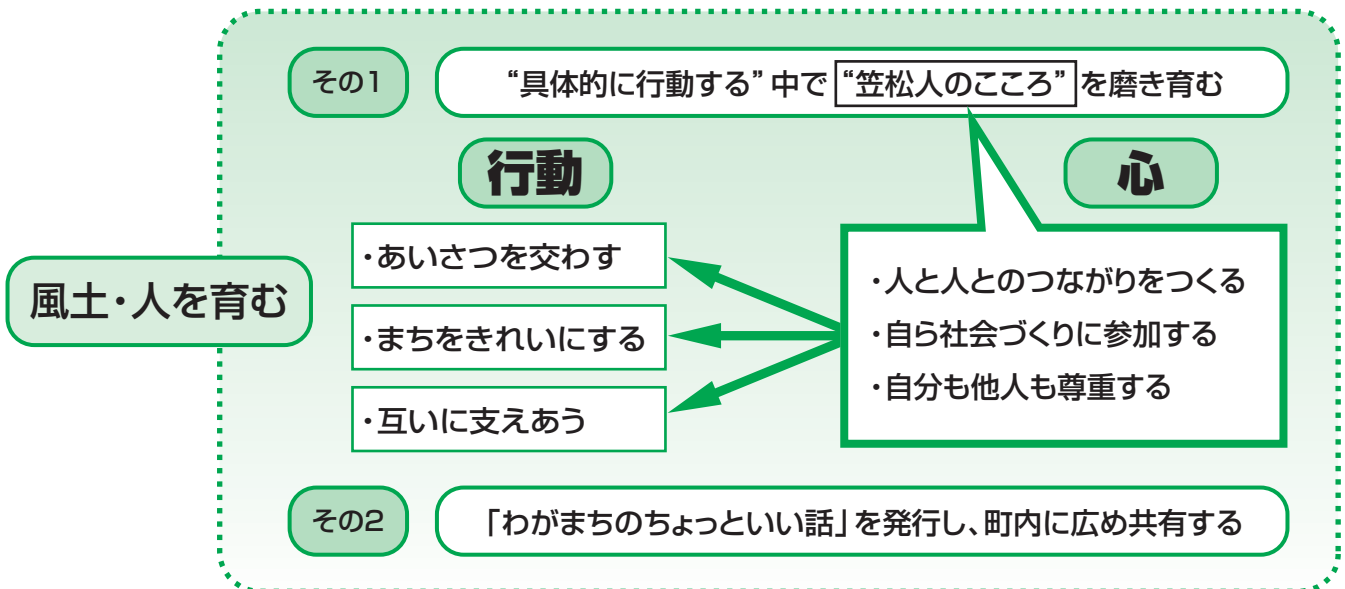


“笠松人のこころ”で 風土・人を育む

道徳のまち笠松推進会議

「道徳のまち笠松」の具体化を図るため、「道徳のまち笠松推進会議」（道家嗣典会長ほか委員17人）を立ち上げ、検討してまいりました。推進会議では、「町民一人ひとりが“笠松人のこころ”を意識し行動できる」ことが、笠松の風土・人を育むことになると考え、次の二つの取り組みを進めます。



皆さん一人ひとりの知恵や経験、人脈を自由にゆるやかに、それでいて確かな形で結ぶものに

“笠松人のこころ”を育む取り組み

①行動しよう! 「まちをきれいにする」

「ごみを拾う」姿は語る

町内にごみを拾う人の姿があります。誰かがポイと捨てたり、うっかり落としたり、風に飛ばされてきたごみばかりです。自分で捨てたごみではありませんが、町をきれいにしようとごみを拾われています。

生活すれば、ごみは必ず出ます。少しぐらいならと、ついごみを捨ててしまう心は誰にもあります。こうした誘惑に負けないよう、ごみを拾い

ながら、「ごみを捨てない」心を育みます。同時に、「ゴミを捨てないで」と言葉ではなく、姿で強く語りかけます。



②“わがまちの「ちょっといい話」”から

「エコキャップ運動」

ペットボトルのキャップを400個集めれば、10円で引き取ってもらえます。そのお金で海外の恵まれない子どもたちにポリオワクチンを送る取り組みです。キャップを焼却せず再生利用すると二酸化炭素を減らすことにもなります。

このキャップ集めの取り組みを通じ、“笠松人のこころ”にある「自ら社会づくりに参加する心」と「人と人とのつながりをつくる心」を磨き育みます。社会のためになる喜びをかみしめ、地域の方と、顔見知りのあいだがらになりました。

